



佐々木俊尚の
ネット未来地図レポート

Vol.196

2012.06.04

「水責め」という言葉を拷問と呼ぶか、
それとも「厳しい尋問」と呼ぶか

<http://www.pressa.jp/magazine>

text by Toshinao Sasaki

<http://www.pressa.jp/>

「水責め」という言葉を拷問と呼ぶか、それとも「厳しい尋問」と呼ぶか??「どこからでもない視点」というメディアの立ち位置の幻想

米ハーバード大学のある学生が、「新聞はウォーターボーディングをどうとらえてきたのか」という研究を行いました。調べたのはUSAトゥデーとニューヨークタイムズ、ウォールストリートジャーナル、ロサンゼルスタイムズ。これら主要紙の過去記事を調べたところ、911同時多発テロまでの70年以上、ウォーターボーディングは拷問と扱われていたそうです。

ウォーターボーディングというのは、日本語で言えば「水責め」でしょうか。ウィキペディアには以下のように説明されています。

「板に背中を固定して頭に袋をかぶせて、頭を下に向けた逆立ちの状態顔の上、あるいは袋に穴をあけ口や鼻の穴に水を直接注ぎ込むことで急速に窒息を生じさせる。頭を水槽などに押さえつけると息を止めて抵抗されるが、逆さまの状態水で口や鼻の穴に注ぎ込まれると気管の咽頭反射で肺から空気が放出され即溺れ状態に追い込めるため溺れ死ぬ感覚が簡単に誘導できる」

ウィキペディアによると、ウォーターボーディングを受けた者が感じる溺死感覚は錯覚で、痛みなどではありません。このことからアメリカ政府は、身体を損傷しないためこれは拷問ではなく、「強度の尋問(Enhanced Interrogation)」であると主張しているそうです。だから拷問を禁止するジュネーブ条約に違反しないと主張している、と。

911の後に米軍がアフガン侵攻した際、CIAがアルカイダの容疑者を尋問するためにこのウォーターボーディングを使っています。これもウィキペディアの記述からの引用ですが、2008年2月5日にはCIAのマイケル・ヘイデン長官が上院情報特別委員会で、「アルカイダの容疑者三人にウォーターボーディングを行った」と認めたそうです。

さて、先ほどの学生の研究によると、ウォーターボーディングを米政府が行っていることが発覚した2004年以降、このことばの扱いが先ほどの主要新聞で大きく変わったと言います。たとえばニューヨークタイムズは、1931年から99年までの間でウォーターボーディングという言葉が出てくる記事が54あり、そのうちの44の記事で「拷問」と表現していました。ところが2002年から08年の間では、ウォーターボーディングが出てくる143の記事のうち、それを拷問として表現しているのはわずか2本しかありませんでした。

新聞は「客観中立報道」を標榜しています。しかしこのウォーターボーディングの事例でもわかるように、客観中立などというものは表面的な幻想にすぎません。ウォーターボーディングという言葉はどう扱うのか、それを「拷問」と呼ぶのか、それとも「きびしい尋問行為」と呼ぶのかによって、その新聞社の政府との距離が逃げて見えてしまうということなのです。

ニューヨーク大学のジャーナリズム専攻、ジェイ・ローゼン教授はアメリカの新聞の客観中立スタイルを「どこからでもない視点 (view from nowhere)」と呼んでいます。彼はブログでこう書いている。「いまのようなネットが普及した社会にあっては、だれもが情報や意見を発信でき、誰もが編集者やコラムニスト、出版社になれるようになった。そこではそもそも『統一されたただひとつの声』という新聞特有の論説スタイルはもう有効ではない」

客観的中立報道はすなわち、「客観的中立」というただひとつの視点に新聞社が依拠するということがイコールになっているわけです。そのような、唯一の客観的中立という視点ではなく、多様な視点の集合体の方が良いのでは？

「客観的中立という視点が、たったひとつだけ」

「さまざまな個人の視点が、たくさん用意されている」

このどちらが今の社会において信頼性を担保してくれるのだろうか?と考えれば、答は明らかでしょう。明らかに後者の方が信頼度が高いと思われます。

ローゼン教授は、こう書いています。「客観的中立視点はもはや有効ではないだけでなく、今の社会に対しては害悪にさえなっている。なぜなら今起きているさまざまな問題は、私たちの生活に直接影響を及ぼす。それらの影響がどのようなものなのか、どの程度のものなのかをひとりひとりが自分自身の身丈に合わせて知ろうとするときに、この客観的中立という視点は阻害要因になってしまうからだ」

これはたとえば、震災後に人々が求めていた情報の温度差の違いを思いだしていただければわかりやすいのではないかと思います。津波被災地、津波は来なかったけれども被災した仙台などの被災地、福島原発の避難区域、千葉県などの湾岸地域、首都圏、西日本。それぞれの場所ですら求められている情報は異なり、それらの情報の価値も求める側の人によってさまざまに異なりました。このようなグラデーションの中で、「たったひとつの客観的中立」を標榜してもあまり意味がありません

USAトゥデーの発行人であるラリー・クラマーはインタビューに答えて、新聞はただひとつの意見を発信する媒体ではなく、「多くの意見の概説」としての媒体にしたいと答えています。

従来、客観的中立報道は、広告的な要請でもあったというのが歴史的経緯でもありました。客観中立を標榜することによって、マスマーケットにリーチしたいクライアント企業は安心して広告を出すことができたのです。つまり、

客観中立＝マスにリーチできる

と見られていたわけですね。しかしいまや広告市場はこうしたマスマーケットから離れつつあり、この観点からも新聞が客観的中立を標榜するビジネスの必要性は薄れてきていると言えます。

また客観的中立報道は、新聞の記事をつまらなく無味乾燥なものにしてしまっているという面もあります。

新聞社にはたくさんの編集者がいて、彼らが次々に記事をチェックしています。この結果、記事にもともとあったユニークな視点といったものはどんどん失われ、無味乾燥なものに変わってってしまうということです。船頭多くして……と言われますが、出来の悪い映画の制作方法と同じようなかたちで新聞というのは作られているということですね。ただひとりの強烈な視点を持った記者が書いた記事の方が、複数の編集者を経て丸くされてしまった記事よりも本当はずっと面白いはず。

実はもっといろんなことを記者は考えています。でもそれを押し殺し、定型に当てはめて記事を書きます。その定型は、たいていの場合ステレオタイプな客観中立っぽいと思われる視点になっているのです。

この客観中立の枷を外し、クラマーが言うように「多くの意見を並べて概説できる」ようなメディアに新聞やテレビを変化させていけば、きっともっと面白いものが生まれてくるのではないかと私は考えています。

■Why newspapers need to lose the 'view from nowhere'

<http://bit.ly/KMU4PD>

マスコミと当局の関係は1990年代以降「地下化」した（2）

??新聞・テレビと当局、そして新聞・テレビと雑誌の共犯関係

警視庁の広報担当者が私に明かした話とは、次のようなものでした。

「警視庁は三浦の起こした裁判で負けたわけではなく、引き回しをやめるつもりなどは当初はなかった。マスコミとの間で長い時間をかけて作られてきた慣例だったから。ところがこの三浦裁判にからんで、警視庁と仲間だったはずの新聞やテレビなどがさかんに『引き回しは人権無視だ』というような報道を行った。自分たちが『読者のために必要だから』と警察に求めて引き回しをさせるようになったのに、いったん社会問題化したらまるで自分たちは部外者であるかのように『引き回しのような行為を許してきた警察はけしからん』という論調に走っている。警視庁や警察庁の幹部も態度を硬化させないわけがない」

結果として警察当局幹部は激怒し、「以降いっさい引き回しなどのマスコミ向けサービスは行わない」と内々に通達を出す結果となりました。要するに、警察は三浦事件の前までは警視庁記者クラブのマスコミのある種の「身内」「インサイダー」として捉えていたということでしょう。

だから三浦和義氏が「引き回し」で警察を訴えたときも、「まあ犯罪者が私怨で裁判に訴えるだけだから」程度にしか考えていませんでした。ところがこの裁判で「引き回し」の違法性が認められたとたん、マスコミは一転して警察批判へとまわってしまった。この態度の豹変ぶりに警察幹部たちは驚き呆れ、「そっちがそういう考えならこっちもそれなりにやらせてもらう」と態度を硬化させたということなのでした。

つまりはマスコミが、自分で自分の首を絞めたという結果だったのです。

ちなみに三浦氏の訴訟の影響は「引き回し」にとどまりませんでした。この訴訟をきっかけに、テレビ報道が容疑者の手にかけられている手錠にモザイクをかけるようになったのです。

この90年代前半という時期は、新聞記者と警察の関係性が大きく変わっていた時期に当たります。たとえば私は1988年に新聞社に入社し、当初は岐阜支局に配属され、岐阜中警察署のサツ回りや岐阜県警本部などを担当しました。この80年代末という時代、とくに地方ではまだ警察と記者の関係は非常に牧歌的で、県警本部の捜査一課のデカ部屋も出入り自由でした。刑事と記者が公衆の面前で、「おい、今日は麻雀ちょっと行くか」「飲みに行こうぜ」というような話も平気で交わっていたのです。

岐阜は風光明媚な観光県なので、さまざまな祭りや年中行事があります。それらの写真を撮影し、記事を書いて投稿するというのも記者の大切な仕事です。有名なところでは、郡上八幡の

夏を彩る「徹夜踊り」。

ところが毎日新聞は郡上八幡に支局などの取材拠点を持っていません。そして（いまは高速道路が開通したのでだいぶ楽になりましたが）支局のある岐阜市から郡上八幡までは、国道156号を延々と走って1時間半以上もかかります。特に徹夜踊りの最中は渋滞が激しくなるので、もっと時間がかかってしまいます。

今のようにデジタルカメラやブロードバンドルータ、スマートフォンなどいっぱいありません。夜になってから始まる郡上踊りを取材し、写真を撮影し、それから岐阜市に戻って記事を執筆し、写真の現像・焼き付け・送稿を行っていたのではとうてい間に合いません。そこで毎日新聞岐阜支局では、「郡上で暗室のある場所を」と探し、そしてなんと八幡警察署の鑑識課の暗室を借りていました。夜になって人気のなくなった鑑識課に勝手に上がり込んで（もちろん事前に許可は得ていますが）、踊りの写真を現像し、ついでに電話回線も借りて写真を名古屋の本社に電送していたのです。

鑑識課の部屋に入ると、簡単に目の触れる場所、手の届くところに容疑者や犯行現場、あるいはなにかの遺留品といった写真が無造作に置かれていました。事件の被害者の身元が分かってしまうような書類も。「うわー、こんなのわれわれ記者に見せちゃって大丈夫なのか?」と思ったりしましたが、逆にその無造作さがかえって「見ちゃいけない」という自制心へとつながり（笑）、法律に違反するようなことは結局しませんでした。

とにかくオープンで気楽な関係だったということですね。

ちなみに余談になりますが、デジカメとモバイル環境が表れてくる前の写真送稿は、「写真電送機」という大きなデバイスを使っていました。以下のサイトに写真があります。

■最近まで使われていたドラム式の写真電送機

http://www.monokowashi.com/senjin/photo_tech/as_you_see7.html

この電送機を、鯉口クリップを使って電話回線に物理的につなぐのです。同時に撮影したフィルムを現像し、引き延ばし機を使ってキャピネ判サイズにプリントします。これを電送機のドラムにまきつけます。あとはスイッチを入れると機械から光が照射され、高速で回転するドラムに巻き付けられた写真を「ピコン、ピコン」とスキャンしていき、その信号を音声に代えて電話回線経由で送るというものです。だいたい1枚の写真を送るのに15分ぐらいはかかったでしょうか。岐阜支局から本社に急ぎの写真を送る際も、この電送機が使われていました。ただ解像度などはやはり低く、昔の新聞記事の写真がたいてい不鮮明でぼやけているのは、この機械を使っていたことが背景にあったのではないかと思います。

本社の側では電送されてきた写真があまりにもぼやけているので、勝手に黒ペンなどを使って修正してくっきりさせ、紙面に掲載するというようなことも行われていました。先日、毎日新聞北海道報道部のカメラマンがサクラの写真に映り込んだ自分の影をPhotoshopで修正したことが発覚し、お詫びするという騒ぎがありましたが、正直なところ昔のことを知っている者から見れば「何もそんな程度で謝らなくても……」という感じもします。

私自身の恐ろしい経験で言えば、アフロヘアの人の顔写真を電送機で送信したら、翌日朝刊の紙面に掲載された顔写真は「アフロ」部分が完全になくなって単なる丸坊主の人にされていたことがありました。背景がクロっぽかったので髪の毛がどこからどこまでなのか判然とせず、本社の方で勝手に坊主として写真をトリミングしちゃったということですね。今だったらたいへんな問題になっていたかもしれません。

そういえば別の新聞社の話ですが、「名勝寺の天井のすず払い」という年中行事を記事化するのに、記者が横着をして写真を撮りに行かず、前年に撮影した写真をそのまま送稿してそれが記事になってしまったということもありました。これがなぜ発覚したかということ、読者のオバチャンからこういう問い合わせが電話であったからです。

「去年亡くなったとなりのおばあちゃんが映ってる！これは心靈写真じゃないですか？」このケースも「そういうこともありますかもねー」という新聞社広報のよくわからない電話対応ですませてしまい、とくだんお詫び記事も出さなかったと聞いています。なんて酷い話……ですが、当時はマスメディアの外側を取り巻くインターネットというオータナティブなメディア空間が存在しなかったため、読者のそうした指摘が新聞社以外で周知されてしまう可能性がほぼゼロだったからです。

それほどまでに昔の新聞というのはかなり大ざっぱで、読者や当局との関係も非常に適当に行われていたということなのです。新聞社とテレビがメディア空間をほぼ覆い尽くしていた時代だからこそ、このようなあり方も可能だったのでしょう。

話を戻せば、容疑者逮捕後の「引き回し」のような慣習も、このような包括的メディア空間だったからこそ成り立っていたと言えるでしょう。

このころまで、変な慣習はたくさんありました。たとえば逮捕の翌日には、容疑者が収監されている留置場のある警察署の副署長などが立ち会いに応じ、「容疑者は逮捕から一夜明けて朝飯をちゃんと食べたかどうか。メニューは何だったか」というようなことを答えるというものもそのひとつでしょう。

「えー、容疑者のけさの朝食は麦飯と味噌汁、漬け物でした」

「全部食べましたか？」

「はい、完食です」

「様子は」

「まあ元気ですねえ」

「反省してますか」

「うーん、そういう感じは今のところは無いですねえ」

するとその日の夕刊には、こういう記事が載るわけです。「〇〇容疑者は、麦飯と味噌汁、漬け物の朝食をべろりと平らげた。反省している様子は見られないという」

こういう定型記事・定型文章というのはかつての事件報道にはたくさんありました。たとえば殺人被害者が女性だったりすると、「〇〇さんは男出入りが派手で」といったことを平気で書いていたわけです。容疑者・被害者に対するこうした人権軽視記事がふつうに成り立っていたのは、先ほども書いたように新聞・テレビの外側に世界が存在せず、新聞・テレビの報道が批判されるということがほとんどなかったからです。

週刊誌は今では新聞・テレビ批判を必ず行っていますが、かつては完全な共犯関係でした。なぜなら記者クラブに加盟できない雑誌メディアにとっては、記者クラブの新聞記者やテレビ記者が重要な情報ソースになっていたからです。そして殺人事件などの事件報道が超人気コンテンツだった戦後社会においては、この情報ソースをきちんと確保することこそが雑誌記者の重要な仕事になっていました。

私も警視庁時代、仲良くしていた雑誌記者が数人いました。彼らはなにかと私たちを食事へと誘い出し、けっこう豪華な晩飯を奢ってくれます。当時の総合週刊誌は儲かっていたので、取材費接待費はふんだんに持っていました。捜査機関の記者クラブに入れないうちに、きわめてごく一部の警察幹部・刑事に巧妙に賄賂を送り、ネタ元として活用していたという話は何度も聞きました。

たとえば1990年代に公安事件に非常に強かった老舗大手出版社系の総合週刊誌は、都心にある警察署警備課の公安刑事に月額数十万円を送金していた、という話も聞いたことがあります（裏付けが取れている話ではありません）。

それと同じように、雑誌記者は警視庁担当の新聞記者をネタ元としてつねに活用していました。なにか事件が起きると、たいていの場合そうした雑誌記者から電話がかかってくる。

「佐々木ちゃん、あの事件の筋ってどうなのよ」

「たぶんカンじゃないかって幹部は言ってるよ」

カンというのは、カネ目当てではなく、人間関係のもつれが動機になった事件という意味です。

「男女関係？」

「らしいよ。過去に何人かの際相手がいって、たぶんその中のひとりだろうって踏んでるらしい。まだ全部当たりきれないみたいだけど」

「じゃあ解決までそんなにかからないかね」

「即決だって言ってた」

そして雑誌の次号には、私が話したネタが「捜査本部によると」「捜査関係者によると」「取材に当たっている全国紙の警視庁担当記者によると」など、ひどいときにはまるで3人ぐらいの情報ソースがあるように書き分けられ、もっともらしい記事となって掲載されるというわけです。「捜査本部」も「捜査関係者」も「警視庁担当者」も、実はすべて私の話した内容だった、というようなことも珍しくありませんでした。

このように新聞・テレビと当局、そして新聞・テレビと雑誌は、目的はそれぞれ異なるものの、「事件報道がたいへんな注目を集める人気コンテンツである」という戦後社会の前提のうえで、ある種の共犯関係を構築していたというのが実態だったのです。

(以下次号)

英語キュレーション

??本メルマガ限定で米国の注目IT系記事を紹介！

今年3月に開設された「ワンタイニーハンド（小さな片手）」というタンブラーのサイトが大人気になっているそうです。セレブの写真を加工し、彼らの片手を小型サイズに縮小して見せるという不思議な内容。最初の10日間で80万ビューを獲得し、その後も更新が続いています。見てみると、たしかにちょっと魅力的。

ところがこのサイトを真似したとしか思えないテレビCMが登場しました。ポテトチップス「プリングルス」のこのCMでは、どこかジャングルの知られざる部族の「手を小さくする」という通儀礼を紹介するドキュメンタリ風で、小さい手だからプリングルスのポテチを取り出しやすい、というようなオチになっています。

これってパクリでは？果たして模倣はどこまで許されるのか？という問題が提起されています

。とりあえず見比べると面白いよ。

■新しいプリングルス広告は「小さな片手」タンブラーサイトの盗作だ（プリングルスCM動画あり）

(New Pringles Ad Rips Off 'One Tiny Hand' Tumblr)

<http://on.mash.to/JOB5pU>

■「小さな片手」サイト

<http://onetinyhand.com/>

自動運転の自動車を実現させようというSARTRE (Safe Road Trains for the Environment) 計画がスペインで125マイルの公道での実験に成功しました。

「自動運転」というとグーグルのものが有名ですが、このSARTRE計画と何が違うのでしょうか？

記事によると、SARTRE計画では完全な無人運転を実現するのではなく、プロのドライバーが運転する先導車に誘導されて無人のクルマの車列を形成するという方式。それぞれのクルマは、前のクルマと無線ネットワークでつながり、レーダーとカメラの補助によって速度と方向を判断していくのだそうです。

EUによって資金提供されているこのSARTRE計画の目標は、既存の道路システムを大幅に修正しなくても環境保護を実現し、自動車道の安全性を高めていくということ。

完全な「無人カー」はかなりハードルが高そうですが、SARTREのこのような方式であれば膨大な量のトラック物流網を一気に改善させることに成功しそう。ただトラック運転手はさらに仕事を減らしてしまう結果にはなりそうですが。

■自動運転された3台のトラックのキャラバンが125マイルの公道テストに成功

(Autonomous three-car caravan completes 125-mile public road test)

<http://vrge.co/JOCQGD>

街の書店の意味とは何か、ということを問い直した記事です。キーポイントは「パーソナライズされたサービスとコミュニティだ」と言い切っています。

たとえばアップルストアを考えてみよ、とも。単なる小売店ではなく、その場が「溜まり場」になるようなデザインと動線の設計が行われています。書店も同様に、単に「本を買って出ていく」という小売店でなく、そこが溜まり場になりうるような仕掛けを考えていくべきだと指摘しています。

そして、セルフパブリッシングの発信地としての可能性が挙げられています。

Kindleストアなどでのセルフパブリッシング（自己出版）は英語圏では当たり前になってきていますが、慣れていない書き手にとっては具体的なノウハウを知る場所があまり用意されていません。そういう質問に答えてもらえる、信用できる場がセルフパブリッシングにはこれまで存在しなかったのです。たとえば「セルフパブリッシングはどう始めればいいのか?」「最良の電書プラットフォームは?」「マーケティングキャンペーンはどうすればいい?」といったノウハウです。

これを書店が手がけ、文化の発信地にしていけばいいのではということです。これをどうマネタイズするのかという問題はありますが、そうした方向もあり得るのだということは一考の余地があると思います。

■書店の再発明

(The reinvention of the bookseller)

<http://oreil.ly/MbwjJM>

Facebookが日本で急成長している、というブルームバーグの記事です。

ニールセンの数字によると、半年前には600万人だったユニークユーザー数が今年2月には1350万人に達したそうです。そしてこれはSNSとしては日本一に躍り出たことだ、と指摘しています。ただしここで比較されているのはミクシィとTwitterで、GREEやモバゲーは含まれていません。GREEモバゲーは別種のサービスと考えられているということなのでしょう（私もそう捉えています）。

同じように日本史上に参入してきているリンクドインのアジア太平洋ディレクターのコメントが掲載されています。「Facebookは日本で遂にコーナーを回った」と。

■Facebookが日本でついに最多のユーザーを獲得

(In Japan, Facebook Wins the Most Users - Businessweek)

<http://buswk.co/JTjHjB>

HPのプリンタ部門の売上がこの四半期は10%下落したそうです。同社のメグ・ホイットマンCEOによると、最大の理由は、消費者が写真を印刷しなくなってきているということ。

消費者は写真を印刷しないかわりに、FacebookなどのSNSに写真をアップロードし、友人たちと共有する方向に楽しみを見だしています。今までのようにわざわざ印刷し、それを手紙などに同封して友人に送る必要がなくなってしまったということですね。これは当然の方向性かも。

■フェイスブックはHPのプリンタ事業を終わらせるか？

(Is Facebook killing HP's printer business?)

<http://bit.ly/JTkGAz>

いま起きている新しいデジタルデバイドは何か？というニューヨークタイムズの記事です。

デジタルデバイドというのは1990年代にさかんに使われた言葉で、インターネットやコンピュータを使いこなせるかどうかという差が経済格差をもたらすという指摘です。このデジタルデバイドを無くすため、各国はブロードバンドの回線整備やPC、携帯電話の普及に力を入れてきました。

この結果、旧来のデジタルデバイドは以前ほどには問題ではなくなりました。

この旧来の「ネットが使えるかどうか」のデジタルデバイドがなくなったわけではありませ

せん。FCCによると、アメリカ人世帯の65%は自宅にブロードバンドを引いていますが、世帯収入2万ドル以下の家庭ではこの比率が40%に落ちてしまっています。またヒスパニックでは約半数

、黒人では41%の家庭がブロードバンドの恩恵にあずかっていません。

ところがいま起きているのは別の事態です。ブロードバンドやスマートフォン、PCが普及した結果、驚くべき「副作用」が表れてきているとこの記事では指摘しています。

「インターネットデバイスが普及した結果、貧しい家庭の子供たちほど、ガジェットを使って長時間動画を視聴し、ゲームを遊び、そしてSNSに長時間入り浸っていると言うことが明らかになった」

豊かな家庭は「子供にどうPCやスマートフォン、タブレットを使わせるか」というポリシーが比較的明確で、子供たちが自由放任にこれらのデバイスを使い放題ということはありません。しかし貧しい家庭ではそもそも親のメディアリテラシーが低く、子供をきちんとコントロールできていないケースが多いということですね。

2010年に発表されたある基金の調査によると、親が高卒・高校中退以下の学歴の両親の子供と、大卒以上の両親の子供を比較すると、1999年段階ではメディアに触れる時間は前者が16分多いだけでした。ところが今やこの差は90分に広がっているそうです。

そこでアメリカでは政府やNGOなどが、この問題への取り組みを始めているようです。基本的なキーボードの使い方からワープロの操作法、オンラインでの求職方法や子供がポルノなどを見ないようにフィルタリングするやり方などを、貧しい家庭の両親に教えるプログラムということです。

記事にはこうあります。「いまのデジタルデバインド解消には新たな意味が加えられている。それは『両親や学生に、デジタルツールの使い方やテクノロジーをつかって教育・職業訓練するノウハウを与えること』だ」

■暇つぶしが新しい「デジタルデバインド」に

(New 'Digital Divide' Seen in Wasting Time Online)

<http://nyfi.ms/L1JshT>

今週のキュレーション

?5月27日?6月2日に紹介した記事から「これは読むべき!」を厳選!

河本準一氏生活保護騒動について「ただ何でもいから叩きたい」というだけの動きに政治さえも乗ってしまうことへの絶望。誰も構造を分析し論点整理せず、ただ漠然とした気分取って変わられている。

■星野智幸 言ってしまうばよかったのに日記

<http://t.co/Q0HoxaI5>

「30年後も残る仕事を選べ」と言われてもそんな将来のことは誰にもわからない。リスクを取った方が本当は安全かもしれない、ということに気づかないと。

■吉崎達彦 極端なリスク回避は停滞への道 産経ニュース

<http://t.co/YgbGpHGD>

中間共同体消滅の先に公的扶助と家庭内自助だけに二分させるのは危険すぎる。その「間」を考えないと。議論を始めようというちきりに賛成。

■家族形態の多様化と「自助・公助」問題についての考察

<http://t.co/7Bj8V4m0>

革命的共産主義者同盟、すなわち中核派がガレキ受け入れ阻止行動に参加してたのか。成田と同じ道が.....。リンク先は中核派の機関紙「前進」サイト。

■北九州で放射能汚染がれき試験焼却に大反撃、搬入実力阻止したぞ!

<http://t.co/dilodpuQ>

住まいも断捨離し、80平方mのマンションから35平方mの古い一戸建てに。家が大きいと無駄にモノが増えるんだよね。ちょっと気になる本。

■広い高層マンションから小さな一軒家へ『住み直す』

<http://t.co/nsh9mzMD>

昨日の環天頂アーク(逆さ虹)写真アルバム。なんてキレイ.....埼玉の人ラッキーだったねえ。

■埼玉南部の奴らがみた変な虹の写真まとめ - Togetter

<http://t.co/QM8kqJjt>

運転代行が事故を起こした場合の保険の問題って盲点だった。

■酒を飲むなら知っておくべき『運転代行』における意外な落とし穴 - NAVER まとめ

<http://t.co/e454Boap>

公助と自助の間をこれから構築していく必要がある。重要な論点。

■studygiftから考える「公的扶助の崩壊にどう立ち向かうか」という問い | ihayat.news

<http://t.co/aZJtXFP9>

大学卒業後、海外経験も無かったがいきなりカンボジアで働くようになった森山真祐子さん。「会社に就職するのも海外で働くのもゼロからのスタートで、どちらを取っても大した違いはなかった」と。いろんな可能性の時代。

■NadeshikoVoice

<http://t.co/tC0REWa6>

アプリで写真を撮ると実際にストックホルムのスタジオに送り、ブラウン管に映してそれをカメラで撮影し、ユーザーに返信。なんか凄い大がかりで驚く。

■本物のブラウン管を通す写真フィルタ iOSアプリ

<http://t.co/RYP08O9V>

昨日のStudygift問題についての論考とそこからスタートする議論。この問題、今後続く大きな話になっていくと思う。

■『Studygift問題とつながる河本準一氏生活保護問題』佐々木俊尚さんの連続ツイートまとめ

<http://t.co/RqdI8FGf>

40年かけて官民で良い景観を作りあげてきた横浜みなとみらいに、アニヴェルセルがギリシャ調やイタリア風などを混在させた変な巨大結婚式場を計画。絶句.....

■議論呼ぶ新港地区の結婚式場計画 横浜市の景観協議が初の「物別れ」に

<http://t.co/KeQ1sVt6>

社会的包摂と個別包摂（自助）をどう組み合わせるかをここでも議論してます。

■佐々木俊尚×田原総一郎×80年代生まれの若者4人 第四回「そして国家はどう変わるのか」

<http://t.co/tl6LqdH0>

イタリアのパルミジャーノチーズ年間生産量の10%が損失.....これはたいへん。

■チーズにかび・バルサミコ酢流失...イタリア地震被害深刻 朝日新聞

<http://t.co/lxtoKjuz>

興奮すると青いヒョウ柄が浮き出るヒョウモンダコ、なんて凶悪な構えなんだろう。かまれると嘔吐や痺れ痙攣。オーストラリアでは死亡例も。

■猛毒タコさらに北上、熊野灘に...温暖化影響か 読売新聞

<http://t.co/7Dc3oPOC>

キャッシュが溜まって重くなるらしい。アプリ削除と再インストールで直ると。やってみたら本当に軽くなった！

■iPhone アプリ版「Facebook」の「クソ重い！」を一発で解決する方法。

<http://t.co/HjvGAalk>

元記事はzakzak。たしかにこういう「ダメだ」と言い張るだけで分析も解決方法の模索もない言説には本当ウンザリさせられる。大原ケイさんの奇立ちに同意。

■1日に1店の本屋が潰れているというクソ記事に怒髪天

<http://t.co/qwh9hno1>

空中で手指を動かして操作する話題のLeapMotion、新たな動画が。なんとかざした手と指が3Dで画面上に映し出されている。すごい。

■Leap Motionデモ動画: とみー

<http://t.co/oz07p3NO>

せっかく喚起された問題なのだから、これを機会に扶助の問題を議論していくべきだと思う。これは非常に良い論考。

■次長課長の河本問題から考える、社会保障の行方

<http://t.co/Hum0UjUr>

クルマ離れだけでなく、実は昨年2月の消防法改正が原因と。そうだったのか。

■街のガソリンスタンドが次々となくなる!! その意外な理由とは?

<http://t.co/T9txFxu9>

中核派のウェブサイトは原発推進派が作ったものという凄いデマ。

■デマです→【偽情報注意!】「「前進」というタイトルの記事は推進派のスタッフが作ったものと思われます」 - Togetter

<http://t.co/urGzcSKw>

記事に全面同意。「リバタリアンとコミュニタリアンの白熱した議論は、日本でも是非とも活発になって欲しい」だが現状ではコミュニタリアンの倫理道徳が守旧勢力からの強要とごっちゃに

。

■studygiftの炎上問題についての一考 風観羽

<http://t.co/Yd8HoHE0>

加速度センサと光センサで暗い時に走ってる時に自動点灯・消灯。これいいな。

■革新的発明と製品情報 スマート自転車ライト

<http://t.co/myf5kRVD>

がれき問題についての佐賀新聞富吉賢太郎編集局長の長い論考。心に響いた。

■武雄市長物語:今朝の佐賀新聞は勇気がある。

<http://t.co/haa8vonl>

たしかに日本の会社ってダメになると社内モラルが崩壊するのじゃなく、高いモラルのまま誤った方向へと突進してるケースが多い気がする。

■腐敗する会社はどっこも似たような匂い まつひろのガレーズライフ

<http://t.co/YWGqY2nC>

すごいお話。フランス人男性がシトロエン2CVを分解し、バイクを作り脱出。

■【決死行】男はサハラ砂漠で車が動かなくなると、分解してバイクを作り上げた

<http://t.co/AuUdkHOK>

アメリカのホームレスはBMI30以上が32.3%、BMI25以上は3人に2人。健康的な食物を選ぶ余裕がないためジャンクな食生活に。

■ホームレスの3人に1人が肥満、太っていても栄養不足 米

<http://t.co/JwWRzjwK>

興味深い提案。こういうところから議論は始まっていく。生活保護問題について。

■「個人攻撃はあってはならない」と、全国紙に広告出さないか？の呼びかけまとめ - Together -

<http://t.co/MIg1vkQd>

素晴らしすぎる。昨日のにわか雨の直後かな。

■スカイツリーと虹。完璧すぎる構図。美しいです！

<http://t.co/20D0VBI4>

著者自らが行ったハリーポッターの電子書籍化は電子透かしを採用しDRMフリー。初月に500万ドル以上を売上げ、その勢いはやむことがない。王道。

■出版社はPottermoreモデルを採用できるか eBook USER

<http://t.co/yL8qe2pP>

オフショアリングに対し、生産拠点を自国に戻すリショアリング。だが事例では米国雇用は3000人。中国での米企業雇用は99年の29万人から09年に144万人に。大前研一氏。

■米国製造業の「国内回帰」は虚構にすぎない これも明日は我が身の問題

<http://t.co/TwBVTST>

ネットは「リア充」と「換金」を可視化。そうなんだよね。その状況が現出した中で、どう行動するかが問われている。

■ソーシャルウェブは「隣の芝」を可視化する ihayato.news

<http://t.co/AIOg0VqH>

世界は深い。ときに感動的で美しいが、ときに本当に恐ろしい。そんなことを感じた。

■「外国人が人生で最も衝撃を受けた写真」海外の反応

<http://t.co/ySBnPPCC>

職場で私物モバイル端末利用（BYOD）は日米英独中の調査で平均56%、日本はわずか33%。しかし日本でも7割以上が利用を望んでいる。

■スマートデバイス利用が遅れる日本の実態が明らかに

<http://t.co/cFwBhOr9>

こうやってタレントや著名人親族の生活保護受給探しがこれから始まるのか。ああ.....。

■キンコン梶原も母が生活保護 昨年3月から140万円 スポニチ

<http://t.co/MN00yGb0>

とても心に響く記事。「自分に都合のいい人間だけを仲間として線引きし、外の人間は悪で間違っていると思ひ込み、罵倒し石を投げる」。

■かつてネトウヨであった「私」から、今ネトウヨである「あなた」への手紙

<http://t.co/g8JdvN93>

英国デイリーメール紙の調査。58%の人は何か隠したいものを読むときに電書リーダーを使っていると回答。こういうところから常に普及は始まる。

■【やっぱりね！】電子リーダーの1/3はエロ小説を読むために使われている

<http://t.co/9DbhCC9X>

生活が成り立たないため親元に戻るアメリカの若者たちのことを言うらしい。日本で前に言われてたパラサイトシングルと同じかな。先進国はどれも厳しい状況。

■新しい文化、アメリカで急増している「ブーメラン族」 - NAVER まとめ

<http://t.co/TUWd3b8d>

ついに株価30ドル割れ。Fbが独自のスマホ開発へ、という情報も嫌気を誘ったのではと。新たな広告源が必要というのは同意だけど、短期的には難しいと思う。

■Facebookの株価が29ドル台に下落-時価総額から350億ドルが消えた

<http://t.co/1r8cK5V6>

成長への幻想とダメな現実の乖離が、政治家に「空手形」を乱発させる構造。バブル後の日本と今の欧州が同じ構造に。非常にわかりやすい分析。

■「日本化」が「ギリシャ化」する世界 バランスシート調整と世界に広がるポピュリズム 高田創

<http://t.co/bUJdYQnEQ>

動画みるとなんか楽しげだけど、どういう歩行感覚なんだろう？ 走行用の義足に似てる感じも。

■あのエイリアン歩きが可能になる！ 趾行補助用モビルパーツ「DIGILEGS」がついに市販化：カラパイア

<http://t.co/e11Qwd53>

これ面白い方向性。Dropboxが電書のマイ本棚に。

■電子書籍の新しい流通インフラに成長しつつある「Dropbox」、購入作品群を直接落としてくれる販売サイトも

<http://t.co/SSILbLN6>

沖縄の聖地久高島の暮らしを描くドキュメンタリ。震災後の不安、中間共同体の喪失という現在の中でこういう宗教的感覚は求められてる気がする。

■"震災後を生きる"ことへの希望のメッセージ。映画「はじまりの島」

<http://t.co/iZ09CSyM>

良記事。いろいろ考えさせられる。iOSアプリ売上は1本あたり平均1万ドル。商用が中心のAppStore、しかしAndroidは無料アプリが中心に。なぜこうなったのだろう。

■有料Androidアプリの市場規模はiOSの1/10以下か

<http://t.co/mBe9gKV5>

六本木のシェアハウス「よるヒルズ」、あの小さなリビングルームのコタツで、驚くべき大規模なイベントを開催。すごい時代だなと思う。

■『よるヒル超会議』開催決定☆

<http://t.co/dZ6e74ii>

電子雑誌アプリの有料化がうまくいっていないという話。WIREDもiPadで売れたのは定期購読の4.1%。オープンなウェブに慣れた読者が、アプリという閉鎖圏域への幻滅？と。興味深い。

■出版社がアプリを捨てる日 WIRED.jp

<http://wired.jp/2012/05/28/%E5%87%BA%E7%89%88%E7%A4%BE%E3%81%8C%E3%82%A2%E3%83%97%E3%83%AA%E3%82%92%E6%8D%A8%E3%81%A6%E3%82%8B%E6%97%A5/>

読みにくいが非常に重要なことがたくさん書かれている。「成功したいのであれば膨大な情報を総合的に扱うことができ、絶え間ない変化と不安定の中で複雑な問題への洞察の訓練を」

■これからの「仕事」の話をしよう

<http://t.co/0LN3CK7v>

単なるガワや見かけとしてでなく、ウェブのデザインが競争力や成長に直結する時代に。その概念をビューティフィケーションという言葉で説明している。良記事。

■デザインこそコンテンツの未来 転換点の到来

<http://t.co/SSKeHzcF>

関東の梅雨末期の降水量は昨年3倍の可能性も、と。3倍！？

■今年の梅雨は平年より5日ほど「短め」ウェザーニュース、「梅雨の降雨傾向」発表

<http://t.co/DWHmqMQ>

総中流社会の終焉の先にやってきた分断社会を、実にみごとに捉えた、そして同時にまったく身も蓋もない記事。この先にどのような包摂性があり得るんだろう。

■環境という足枷 - G.A.W.

<http://t.co/TSvM0EPN>

これ本当？！

■まじか。。。チャンツイー。。。売春。。。逮捕。。。官僚、セレブ相手に10年で総額約80億って(今日の香港アップルデイリー)。「初恋のきた道」は今どこへ。。。無念。まだ日本ではニュースになってないが一足先に。

<http://t.co/2EnbueKW>

チャン・ツイーの件、台湾のテレビのニュースにもなった。

■博訊:章子怡交往薄熙來 撈32億?民視新聞 - YouTube

<http://t.co/W6DXBV8E>

チャンツイーは薄熙來との関係報道を全面否定しているようですね。

■Zhang Ziyi denies alleged interactions with Bo Xilai - The China Post

<http://t.co/slH0Gr8B>

カニバル事件続き。犯行当日ルーディ・ユーゾン容疑者は午前2時に突然恋人の家を出て行き、クルマで友人宅へ。午前6時、イベントに行こうと誘ったが断られ「ひとりで行くよ」と。

■Exclusive New Details: CBS Miami

<http://t.co/2ZiNq0ll>

さっきの連投をFacebookにまとめておきました。それにしても不気味。「マイアミの気持ち悪いカニバル事件詳報」

■Facebook私のフィード購読もどうぞ。

<http://t.co/7aOtMlLW>

雑誌POPEYEがリニューアル.....しかしこれは絶句。いまマガジンハウス編集者の平均年齢は40代で、20代は数えるほどしかないと前に聞いた。

■「ポパイ」のリニューアルで考える時代の変化 シティボーイは復活するのか、ホントに

<http://t.co/Ke468O37>

ティム・クック、CEO就任後初めての突っ込んだ長いインタビュー。米国内生産への帰帰やSiriの改善などを約束。いろいろ興味深い。

■「素晴らしい」新製品を準備中 アップルのクックCEOがDカンファレンスに登場 WSJ

<http://t.co/oYsOc4vD>

いろいろたいへんだと思うけど、この先の音楽とリスナーの関係を予感させてくれる良記事。応援。

■「楽曲は無料、ライブも無料」の時代を 日本の音楽業界に挑む米国人シンガー（プロゴス）

<http://t.co/Efa8ELG3>

コンシューマITに打ち倒された企業IT、しかしその先の仕事は消滅するのではなく場所を変えるだけ、と。単なるシステム構築ではなくITと社会の橋渡しという方向に行くのかも。

■クラウドと「iPad」の繁栄そしてギーク時代の終焉

<http://t.co/MUIVQzMg>

人間の行っていた単純作業をITに置き換えるだけの「電算化」ではなくゼロベースで枠組みから考え直す「情報化」を、と。実地的確な事例と指摘。

■改札を機械化する日本、改札をなくす韓国 情報化の本質とは何か 藤宗淳

<http://t.co/2HxY3wFn>

北朝鮮を奇妙な国と表現することでその表しかたが固定化し、メディアは自縛自縛になり実態を伝えるにくくなっていく。これすごく難しい問題だと思う。

■「将軍さま」と「事実上のミサイル」 その意外な共通点 森達也

<http://t.co/kFkVPoiG>

どこも気持ち良さそう。これから梅雨に入るまでがオープンテラス楽しむ数少ない季節。

■開放感たっぷりの屋上カフェ【東京】 - NAVER まとめ

<http://t.co/v7XxM6TY>

最近のアップル新製品の噂のまとめ。11日からのWWDCはたぶんiPhoneは出ず、MacbookProが全面リニューアル？

■次期iPhoneのリークの火ぶたが切られた！ @CDiP

<http://t.co/K3PLEjuw>

「企業にはもはや企業戦略など不要であり、環境に対して柔軟に適応する能力こそが重要」。最近流行のリーンスタートアップとも共通する考え方。移行期にはこうならざるをえないと思う。成毛真さん書評。購入。

■『アダプト思考』

<http://t.co/awnlyFUM>

産業構造が変わってきて、ますますものごとを「体系化できる」「抽象化できる」という能力が必要になってきているという話。長いが良い記事。

■「頭がいい」とはどういうことか 紙屋研究所

<http://t.co/jMKmqSpb>

クルマの自動運転をめぐる日本自動車業界の最新事情を俯瞰する。今後の実現には、技術的壁よりも政治的社会的壁の方が大きいと思う。

■「ぶつからないクルマ？」 スバルEyeSight販売好調 2020年代初頭「自動運転」実現への期待と不安

<http://t.co/nVmMTp9t>

三浦半島のひずみは関東大震災で解放されたが、こちらは300年間ひずみがたまり続けている、と。もう次から次へと……。備えをしよう。

■房総半島沖で大地震の可能性 NHK

<http://t.co/AFFPTbqJ>

これは凄い。写真見ただけで足がぞわぞわ。

■空中でジャワティ：地上40メートルでテーブルごとつるされて.....空中レストランでお茶してきた

<http://t.co/zfpaaf1J>

受託開発は2007年をピークに下がり続けている。サービス化とグローバル化は前から言われているのに、いまだ対応できていない大手の状況。

■田中克己の針路IT - 受託ソフト開発会社は、もう終わり！：ITpro

<http://t.co/98USpqqz>

前に買取していたレストランガイドのZagat口コミ情報が、Google+について統合。ただ機能的にはまだ不十分と。

■グーグル、ザガットのレストラン・ガイドと地域情報サービスをG+と統合

<http://t.co/EKzljxtv>

お店のおいしい料理写真を共有するFoodspottingが日本語化された。TIME誌の「2012年のiPhoneアプリ50選」に選ばれている人気アプリ、インタフェイスが秀逸。

■App Store - Foodspotting

<http://t.co/rEhPcehb>

このシリーズめちゃめちゃ面白い。読みふけてしまった。実際に床が抜けた家の修復事例とか
凄い。

■続・本で床は抜けるのか マガジン航

<http://t.co/HuFWTudU>

これは凄い進化。ログイン作業が必要なWiFiにも自動接続し、スリープ時もPCのアプリをア
プデートし続ける。

■デバイススケーブ、インテルとの提携でスリープ中もWi-Fi接続できる機能を提供

<http://t.co/RMPJeFfs>

ヴィレヴァンが中高年向けの新業態の店舗を展開しているらしい。拡大路線で尖った感じを出し
にくくなり、そこで年齢セグメントを分けてブランドを分割しようとしているのでは、と。へー
。

■ヴィレッジヴァンガードの変貌を探る

<http://t.co/wzHf6tBF>

良記事。世界を体系化して見られるようになるってことが大切だと思う。

■「こんなこと勉強して何の役に立つの？」と聞かれた時、言葉を尽くせない大人が知性を殺す

<http://t.co/YpuTN3L1>

安いサービスにまでクレームを言う人がいる中で、そうしたつまらないクレームを回避できる
というメリットが大きいと思う。英断。

■大胆なスカイマーク「苦情受け付けない」「丁寧な言葉遣い義務付けなし」 スポニチ

<http://t.co/NCIJfS5J>

どこかに絶対的な悪があると妄想することの危険。生活保護の不正受給ばかりを問題にするこ
とで、生保を受けてる人に不正受給者が多いという印象を振りまき、結果的に生保受給者を叩く
言説になっている。

■聖域を妄想する現象の結末

<http://t.co/0jmQH5>

バブル時代の先鋭的文化を代表したあの輝かしいシーズン、いまは昔の物語.....。

■西武、H西洋銀座...銀座シーズン閉店にみる堤家の没落

<http://t.co/8kp9USrN>

英米独仏では書籍売上高は順調に伸びている。出版崩壊は雑誌衰退に引きずられた日本の特殊事
情であることを認識すべき、と。これ私も「電子書籍の衝撃」で書いた。

■出版状況クロニクル49

<http://t.co/OQP0Uxl>

新しい生き方を編み出せるのは一部の優秀な人たちだけで、多くは生き方を誰かから教わらな
ければならない。しかし身の丈に合った「手本」がいま欠如しているのかも、と。本当そう思う。

■「貧しい」とはどういうことか - デマこいてんじゃねえ！

<http://t.co/KJzkq3bF>

なんとこれは素晴らしい。どういうアプリが使われるかが気になる。

■朝日新聞デジタル：タブレット端末を全小中学校に導入へ 大阪市

<http://t.co/6n1Nx73Y>

行方不明みたいな話があったけど、亡くなられたのか。31日、都内の病院で。69歳。ご冥福を。

■歌手の尾崎紀世彦さん死去 NHKニュース

<http://t.co/Fqowth3w>

.....これいろんな意味でいまの社会のありようを象徴してるかも。身も蓋もないけど。

■田舎で成功し始めると金をむしられまくる。田舎と都会のフェアネスの違い fromduskildawnの
雑記帳

<http://t.co/RqjNjPwX>

どうしてこうなった.....カーテンやソファの臭いも脱臭してくれるテレビ。

■パナソニック、ナノイーを一体化した液晶テレビ-カビやダニを抑制 - CNET Japan

<http://t.co/i5vDNxHq>

これ大切。「下り坂に駐車」方式で、翌日仕事の続きをはじめるのが楽ちん。

■「わざと中途半端なところでやめる」ことが生産性アップのコツ：ライフハッカー

<http://t.co/DMTFDenW>

「会議に遅刻しそう」と書いたら「ゆうべはありがとう！だいぶ飲み過ぎてたね」とキャバ嬢か
らコメントが入ったり。たしかにそれは要注意（笑）。

■フェイスブックでキャバクラ嬢と「友達」になるリスクを考える

<http://t.co/wq0fDry7>

かなり美味しそう。今度やってみよう。

■これはワインが飲みたくなる！ 「カマンベールチーズ+ブルーベリージャム」をチンすると

極上スイーツに大変身するぞ！

<http://t.co/3PIhVbFm>

Googleマップが6日にリニューアルされるらしい。「次の次元へ」と告知され、3D化では？と。アップルがiOS6で独自3Dマップ搭載するという話への対抗か。

■Google planning to introduce map

<http://t.co/5FCGm9Pd>

Nook版トルストイ「戦争と平和」で、Kindled（灯された）の単語がすべてNookedになっていることが発見された。なんじゃそりゃ。

■War and Peace turns the word "kindled" into "Nookd"

<http://t.co/4f57dR5E>

バブルのころはお金の流通量は多かったかもしれないが、生活文化は質が低く価格も高かった。社会の富は今の方が確実にストックが増えている、と。本当そう思う。

■やっぱ昔より今がいいよね。 所長サンの哲学的投資生活

<http://t.co/7vUGg7FF>

半世紀前からあるコクヨのキャンパスノート、細かく地道な改良がロングセラーに。日本はこういう製品本当に素晴らしい。

■25億冊売れた「キャンパスノート」のロングセラーたる理由

<http://t.co/6DskKjHd>

すぐリアルに伝わってくる。これ多くの人に読んでほしいと思った。

■元受給者が語る生活保護から抜け出せない5つの理由 - Together

<http://t.co/4H9D6P5G>

スーパー噴火や小惑星衝突、超新星爆発など。読んでいたらたいへん運命論的な気分になってきた。

■「世界の終焉」8つのシナリオ WIRED.jp

<http://t.co/qDYWdFlJ>

お笑いタレントの親族に生活保護受給者が多いということ自体が、日本の社会のいまの有り様を浮き彫りにしているのかも。吉本興業は貧困脱却のジャパニーズドリームになっていると。

■ジャパニーズドリーム - mizuhiro_ahiruの日記

<http://t.co/nqjpHpYd>

これからの時代には強者弱者の定義も変わってくるだろう、と。

■佐々木俊尚×田原総一郎×80年代生まれの若者4人 第五回「『弱者のノマド論』とムラ社会崩壊後の社会保障」

<http://t.co/koMedPDX>

この参加者の方のブログをこの前読んで気持ち悪くなり（グロい写真もあった）、Twもしなかったんだけど、やっぱり社会問題に.....。

■"人体食べるパーティ"主催者が下半身の一部切除か 杉並区調査 MSN産経ニュース

<http://t.co/A89ovaCF>

今週のライフハック

??フェイスブックにスケジュール投稿機能がやってきた！

■Facebookにスケジュール投稿機能が追加された件 | Technomado

<http://bit.ly/Kkrfjw>

私はBufferという自動投稿アプリを使ってツイッターの朝キュレを投稿しています。だいたい午前6時ぐらいから投稿文を作り始め、8時のスタートまでにほぼすべてを終わらせるというのが毎日のスケジュール。皆さんが私の朝キュレをご覧になるころには、私はジムに行っていて着替えてランニングしているというわけです（笑）。

このBufferにはTwitterとともにFacebookにも投稿する機能がついているのですが、これはあまり有効ではありませんでした。なぜならFacebookでは外部のアプリが公式APIを利用して投稿した場合、その投稿がかなり間引かれて表示されてしまうという制限が存在するからです。

つまりBufferからFacebookに投稿すると、私のフィードを読んでいるフレンドやフィード購読者の方のタイムラインには、朝キュレがかなり減らされて表示されてしまうということですね。

これを避けるためにFacebookに関しては手作業で朝キュレをコピーして投稿していたのですが、面倒なのと、Twitter投稿後はさっきも書いたようにジムに出かけてしまうので、時間のずれが生じてしまう（だいたいお昼ごろにFacebookに転載してます）という問題がありました。

しかしこのFacebook純正のタイムスケジュール投稿機能を使えば、外部API経由のように間引きされることはないでしょうし、Bufferと同時に予約しておける！

今のところひとつひとつの投稿ごとに時間を設定しなければならず面倒ですが、使い勝手はすぐに改善されるのではないかと期待しています。

今週のブックレビュー

――フランスの著名レストランで戦い続けた歴戦の勇士、仕事を語る

■『調理場という戦場』amazon.co.jp

<http://amzn.to/KklDps>

「メルマガ限定の書評を読みたい！」と読者の方からご要望がありました。私も書評というのはこのメルマガでお伝えするのに良いコンテンツだなと感じましたので、今後はブックレビューもお届けしていこうかと思えます（しかしこうやってメルマガのコンテンツがどんどん増えて行ってしまっていますね・みなさん読み切れているのだろうか）。

第1回で取り上げるのは、港区三田にある有名なフランス料理店『コート・ドール』のオーナーシェフ斉須政雄さんが書かれた「仕事論」の本です。新刊ではなく、2002年の刊行。上記のAmazonリンクにある幻冬舎文庫版は2006年の刊行となっています。

『コート・ドール』は私も非常に好きな店で、過去に数回訪問させていただきました。白金高輪の駅からほど近いところにある静かな住宅街、その中にたたずむ大きなマンションの一階にお店はあります。たぶん間近まで行かないと、そこにレストランがあることなど誰も気づかないでしょう。しかし中に入ると非常に静かで柔らかな光が店中を満たしていて、なんだかほっとした空気感であふれています。グランメゾン（高級フレンチ）というと大げさで入りにくい感じの店が多いのですが、ここはそんな雰囲気はまったくなく、実に親密な感じが良いのです。

料理も日本的というか、非常にシンプルで軽い。「ハマグリと炭火焼きとサラダとメイン料理」みたいなこじんまりとした頼み方をすれば、フレンチでありがちな「食べ過ぎて苦しい……」状態にならずにすんで、楽しく会食を終えられます。このお店、グランメゾンの最初の入り口としてもたいへん良いと思うので、「高級フレンチというものに一度行ってみたい」と思われている方にもお勧めできます。

書籍に話を戻すと、この本はそうした「やわらかいコート・ドール」とは打って変わって、非常に激しい本です。斉須さんがフランス語もまともにはわからないまま23歳で渡仏し、さまざまなレストランで修業していく様子が描かれています。どんどんお店をステップしていく感じ、シェフや同僚たちとの激しいバトル、まるでドラゴンボールか何かのマンガを読んでいるようなおもしろさがあります。

そして同時に、「なるほど！」と思わせる素敵な表現があちこちに散りばめられています。

渡仏直後、フランス語がわからなかったころ。「何を言っているのかわからないから、我が身を託していい相手を、そぶりや顔色や声のトーンで判断して賭ける必要がある。そういう方向の判断力は研ぎ澄まされたかもしれません。人がウソを言うときの雰囲気はよくわかるようになった。それがわからないと、自分はそのレストランでは生きていけないから」

三店目で、徹底的に店を磨き上げることを意味を教えてもらったということ。だからコート・ドールでは、いちばん汚れるところには足ふきマットのような「汚れをごまかすもの」を置かないようにしているそうです。「ごまかしてマットを敷いてると、結局は見て見ぬふりをしてぐしゃぐしゃになってしまうでしょう。マットというひとつのことですが、社会構造や人間関係など、多く通ずるものが何重映しにもなっているのです」

名店中の名店、三ツ星のタイユバンでのきびしい経験。「いつまでも前任がなれ合いにならない。仲良いこよしを作らない。自分で経営を手がけるようになって初めて、これは『タイユバン』のオーナーがその状態にしたのだ、とわかるようになりました。大所帯の企業を停滞させないための、彼なりの経営哲学がああ雰囲気を作り上げていた。優秀な企業のひとつの典型を見ました」

どうでしょう。こうやって紹介しているだけで読みたくなってくのでしょうか？ お勧めです。

佐々木俊尚からひとこと

先週のメルマガについて、読者の方から以下のようなご感想をいただきました。

「ソーシャルメディアは中間共同体になり得るのだろうか？ 佐々木俊尚のネット未来地図レポート」を拝読いたしました。中間共同体について、私は大変に必要なものだと思っております。これは民主主義そのものの危機的な状況であるという認識が底辺にあるからです。

■「失われた民主主義-メンバーシップからマネージメントへ」シーダ・スコッチボル著

Amazon.co.jp

<http://amzn.to/LMWD5F>

によると、民主主義そのものが中間共同体の存在によって裏付けされていたようです。日本だけではなく、世界中のあちこちで(当該書籍はアメリカについての言及のみですが)中間共同体が失われたことで、民意を集約しきちんと国(政府)にフィードバックしていく仕組みも機能しなくなっているというわけですね。もちろんマスコミが報道という形でのフィードバックを行っていますが、残念ながら政治よりも政局を、という大衆の方向性に抗いきれず、その場その場でのフロ一型の考察に押し流されています。

ご指摘のようにSNSなどのインターネットの活用による紐帯も新しく出てきているという状況下ですので、中間共同体の次のあり方も、懐古主義的なもののいい方ではいけないのかもしれませんが。ただまさにご指摘のアゴラ的な紐帯ではなく弱い紐帯であるため、新しい中間共同体としての役割を担えるものが、心配です。

世界のあちこち(日本でもギリシャでも)で起きている民主主義の衆愚性の発露に対して、そろそろ強いリーダーシップを求めていく方向に向かっていく予感がします。これはこれでちょっと怖いのですが、

話し始めると止まりませんね。取り留めのない感想で申し訳ありません。なにか書きたくてメールをしてしまいました。佐々木さんの興味深い記事を楽しみにしていますので、引き続きご活躍を期待しております。

メール、ありがとうございます。ウィークタイズが中間共同体になり得るのか?というのは、日本の共同体について今後考えていく上で非常に重大なポイントだと私は考えています。一方でおっしゃるように、国民国家が特に先進国で衰退してきている状況の中で、より強いリーダーシップを求める動きも加速していくでしょうし、この2つの流れがどうからんでいくのか。興味は尽きないのと同時に、たいへんな不安も生じてきていると思います。

「こんな話を書いて欲しい」のご要望、たくさんいただいて恐縮です。順次、取り上げていこうと思っています。ご要望があれば、いつでもお気軽にメールをいただければ幸いです。

メールマガジンの内容でご質問やご意見、ご感想などあれば、mailmagazine@pressa.jpまでお気軽にメールいただければ幸いです。配信した内容とは無関係の質問でも結構です。ひとりで運営しているため、お返事をお送りできるのはその週の終わりになると思いますが、ご容赦ください。必ずお返事はいたします。

またメールマガジンの内容は、全文引用でなければ、内容の紹介や一部引用はどんどんやっていただいても問題ございません。

佐々木俊尚公式サイト

<http://www.ppressa.jp>

有料メールマガジン「佐々木俊尚のネット未来地図レポート」

お問い合わせ mailmagazine@pressa.jp

発行・運営 佐々木俊尚
